

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490500198		
法人名	株式会社 ほんじょう会		
事業所名	みどりの郷 ほんじょう		
所在地	大分県佐伯市本匠大字笠掛1589番地1		
自己評価作成日	平成30年1月31日	評価結果市町村受理日	平成30年5月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=4490500198-00&PrefCd=44&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府巻番館 1F
訪問調査日	平成30年2月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『風光明媚な本匠の地に、ようこそ!』とお迎えすることから私たちとご一緒に暮らしを始めています。ホーム周辺には桜の木を植樹してあり、開設6年を迎える今、樹木幹の背丈はホーム屋根まで届くまでになり、満開の時期は一段と華やかで、入居者皆さんとの桜見は年を追うごとに賑やかさを加えています。ホーム菜園では、今年も野菜作りが始まっています。冬の葉物が終わり、作付済の玉葱のほかジャガイモ、ほうれん草、サラダ菜を作付してあり、新物が食卓に上る春先が楽しみに続きます。勿論、収穫は入居者皆さんで行います。だから四季折々の児か菜園野菜類の献立はグループホームほんじょうの自慢の一つです。昨年の夏祭りは本匠振興局との連携による企画となり、地域交流の大きな意義を見ることになりました。ホーム主催の夏祭りはその余韻のままで盛大に実施しました。恒例の大運動会は風船割りゲーム、綱引き、パン食い競争など職員と入居者で作り上げる企画は大いに盛り上がりです。職員は常に地域交流を意識し、「共同生活での自分らしい自由な暮らし方とは何か」、「その人らしさを損なわない支援とはどんなものか」を常に思考し、ひとり一人に家族同様に温かい心で接するよう日々の介護実践に取り組んでいます。「地域にあるごく自然な佇まい」を目指したホームづくりを目指して、「おかえりなさい!」が似合うホームが私たちの目標です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然環境を生かし、日常が緩やかに流れ、ゆっくりとくつろげる環境作りの中、自分の思うままの生活を楽しめるようスタッフが取り組まれています。四季折々の花を楽しみ、野菜・果物など新鮮なものを食し、季節に合った催事で過ごすことが出来、微笑みっぱいの施設となっています。職員も研修・勉強会など、積極的に取り組む姿勢が伺えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人共通理念の下、事業所ならではの理念を作成し、朝礼時にスタッフ一同で唱和し意識を高める取り組みを行っていることで、ほぼ全員に浸透している。	理念の共有は、朝礼・ミーティング等で行われ、日々支援する中で、理念に添った支援がなされ、利用者の表情に落ち着きと安堵が感じられ、職員採用時に施設の理念を伝えるなど、理念を中心とした取り組みがなされています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職場体験学習イベントを通じて保育園、幼・少・中学校との交流を図っている。園児の来訪は日常となり入居者が施設周辺の散策の際はお互いに手を振る姿も見られる。	近くに人家が少ない事がありますが、積極的にアプローチされ、小・中学校生との交流を図り、幼稚園児の訪問に安らぎを醸し出しています。地区の行事に、重度化になりながらも体調が良く行ける時は、外出など対応がなされています。	隣接地に人家が少ないことは、理解しますが、防災・緊急時等、安全対策のため、近所の人々が気軽に訪れるような対応を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「ほんじょうカフェ」として地域の方々との茶話会を開き、健康相談や近況報告などを行っている。定期開催で、追うごとに参加者が増え、今では次回の開催日を尋ねられるようになり、楽しみにされているようだ。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族の意見を伺い、それをサービス向上に活かせるよう努めている。ホームでの生活ぶりを映像に収め、共有している。また、代々に入居者代表に参加してもらい、発言の機会を設けている。	年間6回以上定期的に行われており、市職員をはじめ11名程で取り組みがなされています。自己・外部評価、更に目標達成計画など双方向で議論がなされています。改善点があれば職員全員で対応がなされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居相談を受けたり施設見学に来ていただき、常に情報交換を行っている。特に包括支援センターには運営推進会議に出席を要請し意見を求め、家族代表者や民生委員、区長代表、地域コーディネーターからのアドバイスを運営に活かしている。	介護保険制度の改正や、利用者本人の状態変化などで相談等により訪問されたり、認定更新時に利用者の状況を報告するなど連携を密にとられ、地域包括支援センターの職員を中心に、施設への行き来も行われ情報交換がなされています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	車椅子は移動手段のみに使用している。食事の際はテーブルの椅子に移動してもらっている。玄関の施錠は行わず、入居者の出入りは自由にしている。	1年に1回ぐらい法人全体で身体拘束等について研修会がなされ、施錠は行わず、外出しそうな利用者には、一緒に外に出るなど、さりげない取り組みがなされています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	特に若いスタッフに全体学習会等の場での人権等の学びの場を設け言葉遣いなど接遇についての学び、目標としてスピーチロクスの排除を掲げ入居者の平穏を心掛け支援している。虐待防止に係る研修等に積極的に参加し復命研修等による共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現入居者で制度活用者はいないが、制度理解のための学習の場は法人グループ全体の合同学習会である「人権研修会」定期的な研修を行い参加、啓発を図っている。職員の共通意識のレベルアップを図るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居又は入居契約の際には十分に説明を行い、承諾を得、その内容に対する理解と納得をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等で入居家族や運営推進委員の意見や要望などを伺っている。モニタリング時に本人やご家族の意見を反映できるよう努めている。家族には行事等に参加していただき、日常の様子がわかる機会を設けている。	意見箱を設置していますが、活用はありません。いつでも家族等が使えるよう設置を外さず、意見要望を出しやすい仕組みになっています。苦情相談は、施設外の市の窓口や国保連等に伝える所があるなど、家族等に伝えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	少なくとも月に一度のカンファレンスの機会を設定し、その中で意見交換し、改善していく箇所を見直し実践に努めている。	運営や担当者交代など職員の意見を大切に、日常の支援の方法、職員のアイデアなど積極的に取り組まれ、管理者も昼食時等に意見交換に取り組まれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	固定給への変更や、資格取得を奨励支援し資格手当の付与、業績など総合的な評価に応じての昇給、介護職員処遇改善給付等、所得の向上を図ることで就業意欲を高め、それぞれの目標達成をサポートしていきたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の状況は実際に現場を見る、又は管理者より報告を受け把握に努めている。研修への参加を通じてのスキルアップを図り、合同学習会や研修会(虐待防止、拘束廃止等)も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人グループのグループホームとの定期交流を行っており、入居者同士に交流の場にも参加してもらっているが、同業や事業所との交流はできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談やモデルケアプラン、基本情報を確認し本人の要望や希望を伺うなどして入居相談を受けた時点からの関係づくりに努めているが、本人の希望や要望がかなえられるまでに至っているかどうか。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談するなどし、また管理者やケアマネジャーを通じて情報を受けことにより内容や状況を把握し適切な支援ができるように心掛けている。特に医療面での不安解消に向け専任看護師の面談を組むなどしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学を要請し安心を提供することから始まり、内容を管理者やケアマネジャーを通じて受け送りを行うなどして、そのサービス内容からもう一つ上のサービスができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の「有する能力」を活かした支援への取り組みを心掛けている。配膳下膳、茶碗洗い片付け、掃除等ホーム内での自立へ向けた支援を実践している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに入居者の日常の様子を伝えるなどして、家族の方との良好な関係が築けるよう努めている。特に医療支援については受診状況報告書を提供し安心できる状況を作るように心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある友人の面会や家族との外出、外泊など支援はできているが幾分重度化してきており、機会が少なくなっていることは否めない。	重度化になる事で、交流は薄くなってきますが、家族・知人・親戚の方と話したい時など支援を行い、気持が落ち着くよう対応がなされ、本人が会いたい時は、体調が良ければ、外出にて出会いを作る機会などの取り組みがなされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立しないようにスタッフが声掛けし、レクレーションを一緒にするなどコミュニケーションを図るようにしているが、ソファーに座ったままの状況が見られることが多くなった。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同系グループ施設への転居の場合は継続した支援を行うための介護で共有を図るなどし、例えば入院退去された方などには折に触れ面会するなど、可能な限り関係が継続する環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との会話や表情の変化などにより状況を把握するようにし、本人の希望に沿えるよう努めている。また意思疎通が困難な場合は家族の意見を求めている。	毎日の声かけや支援の中で、本人の意志、意向の把握に努め、対応が難しい時は、家族・管理者等に声かけし情報を受けとめ、支援に取り組みがなされています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や基本情報を土台として、これまでの生活歴を聞き取り、ニーズの把握をしっかりと行い、より入居者に適した生活環境や支援サービスに努めている。職員間で情報の共有を図るため共通ファイルに綴じ込んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌や支援記録、送り等で日々の状況を共有周知し、入居者の現状を把握することに努めている。月次会議等で問題解決のための状況把握に努めるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者の下、計画作成担当者が中心となり家族や職員と話し合い介護計画を作成し、チームケアとの立場から複数人によるモニタリングとカンファレンスにて問題の解決に取り組んでいる。入居者一人ひとりのルームパートナーを配している。	常に、利用者を中心にした計画策定に取り組まれ、状況が変化した時は、モニタリングを行い、計画の見直しのため、家族や担当職員の意見を聞き、介護計画を作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ルームパートナー制を導入し、複数による日常の記録やカンファレンスなどで情報を共有し、実践に活かすよう努めている。実践効果が出ていると実感している。入居者の日々の変化を把握することに大いに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	馴染みの店での買い物支援や外食などを定期的に行うなどして入居者の要望には対応するように努力しているが、柔軟に対応しきれない場面も否めない。隣接するサ高住との交流促進による効果的支援に努めていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接する小中学校の児童生徒との交流ができ、苑庭で園児と遊んだり定期的な子供たちの来訪は入居者の喜びとなっているようだ。今後、地域交流施設等を活用した取り組みをさらに進めていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族の希望を重視し、かかりつけ医の変更はしないようにしている。また協力医療機関とも密接に連携し、定期受診を行うなど日常の健康管理に努めている。訪問診療も行っている。	定期的に検診を行い、協力医による訪問診療を行っています。専門医への通院は家族からの協力も得ています。毎日のバイタルチェックをはじめ、少しの変化や急な変化に対応できる体制を整えられ、医療機関との連携に努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制は現在、専任看護師ほか看護3名態勢を敷き入居者の日常の健康状況等を把握するとともに、24時間連絡を取れる体制を敷いている。急変時等即応する指揮命令系統も構築でき、迅速な対応を実践している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的な面会を行うなど入院時の現状把握、回復状況の確認に努めている。また退院時は入院中の情報を聞き即応できるように努めている。また医師、看護師からの情報を退院後の支援に役立てるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者或いは家族の希望に沿えるように、予め書面等を作成し説明している。徐々に重度化が進み看取りも意識しなければならぬ中、職員の意識づけを行っている。今後も家族の終末期に対する考えや意思を伺う機会を持つようにしていきたい。	入所時に施設が出来ることの説明をし、家族の方の希望を聞いています。実際にその時が近づいた時は、本人・家族・医療機関と密に連絡をとり対応していますが、施設での看取りには至っていません。近年は重度化も進んでいるため、施設で緊急フローチャートを作成し、体制を整える準備に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署指導による救急救命や心肺蘇生方法などの講習会に適宜参加しスキルアップを図るとともに、今後定期的に学習した技術を反復復命する機会を法人単位で実施する。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回実施する計画だ。3月中の実施に向けて計画を進めることとする。今回は消防職員の指導を受ける機会とし、消防設備の定期点検を実施し器具等の不具合のないことを確認したい。	年2回の避難訓練を消火器の使用や夜間想定訓練等様々な場面を想定して行っています。消防署の方の協力は得ているものの、地域の方の参加も視野にいれ現在呼びかけを行っています。	地域ぐるみでの避難訓練が少しでも早く実現できるよう希望します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心の尊重は最も大切になければならない。馴れからくる気の緩みですぐわない対応をしていることを見かけた場合は職員間で指摘注意する関係性を持ち、意識を持って対応するよう努めている。	研修を通して、職員全員で自尊心の尊重とプライバシーを大切にしたい接遇に取り組んでいます。職員間で話し易い環境づくりに取り組んでおり、利用者の気持ちを第一に配慮されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の話をよく聞き、いま何をしてほしいのかを把握できるように努めて、本人の希望がかなえられるように対応しているが、職員による認識理解にまだまだ温度差は否めない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れに沿った支援を行っているが定められたスケジュールが前提となり、可能な限りその方のペースを大切にしたいが入居者の希望に沿えていない部分が多い。自由な生活設計のための支援計画を図りたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常着と寝衣の区別をつけるようにし、衣類や着衣については自己決定を促している。髪など整容については自力でできない入居者に対しては職員が対応している。散髪や美容カットは希望に応じて訪問美容師に依頼し、ホームにおいて対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の意見や希望、嗜好を聞いてメニューを決める時もあり、食に対する関心を高めたりしており、嗜好に沿った献立や手作りの食事のグレードは高いと思う。職員も一緒に食卓に着くなどして食事の中の楽しい雰囲気づくりに努めている。	畑から季節の野菜を収穫したり、食事の用意や片付けなど出来ることを利用者と一緒にしています。イベント食や外食などでメニューの幅を広げ、利用者の希望に添った食事を楽しむための取り組みをされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事の摂取量や水分量をチェックしている。食べやすくカットしたり嫌いなものや禁忌食材がある場合は別のものに変更するなど、彩りに工夫しながら楽しく召し上がっていただけるよう心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	共有スペースの洗面台において個人の歯ブラシや口腔スポンジを使用し、個々人の歯の状況に合わせてケアを行っている。今後も口腔ケア等口腔衛生研修会へは積極的に参加していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつゼロに取り組んでいる。現在はリハビリパンツ使用者のもの、おむつ使用者はゼロである。継続していく。	以前はおむつ使用の利用者の方も数名いましたが、職員全員で排泄パターン等を把握し自立に向けた支援に取り組み、現在はおむつゼロを実践されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけに頼るのではなく、毎日の散歩や音楽に合わせた運動等を取り入れ自力での排便誘導につながるよう支援している。食事でも工夫し繊維質の多い食材を活用したバランス良い献立で提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	予め時間を設定して入浴を行っているが、本人の希望に柔軟に対応できているとは言えない。好みの時間に入浴ができればよいとの職員の意見に対応できる体制にしていきたい。入浴剤を適宜使った温泉気分の入浴も行っている。	準備が出来る方は用意からしてもらい、入浴剤を使用したり、季節によってはゆず湯やバラ湯にしたり、気持ちよく楽しんでもらえるような様々な取り組みをされています。清拭は毎日行い、体調を第一に考えながら個々に添った支援がなされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の中には睡眠の浅い方や昼夜逆転睡眠の方もいるので、個々人の習慣に合わせた対応をしている。夕食後の団欒のひとときはお茶を進めたりして安眠につながるよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	専任看護師の指示の下、看護師が服薬管理を行っている。ファイルを作成し処方箋等を確認し誤薬のないよう努めている。体調の変化が見られる時は即座に看護師に連絡・相談し、指示を受けるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションインストラクター資格者による楽しめるレクリエーション、カラオケなどを行うようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の希望により散歩に出かけたり、季節ごとの外出や歳時記に合わせたドライブの機会を設けている。また家族との外出の機会の支援を行っている。食材の買い出しを入居者と一緒にする機会も設け、外出を促している。	その日の気分や希望に添った外出支援が行われています。季節ごとのドライブでは、利用者の希望で、おやつを楽しむのも外出の楽しみの一つになっています。最近家族の方との外出支援も増え、さまざまな希望に添った支援に取り組まれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	毎土曜日午前には生協移動販売車の定期販売があり、自分で買い物を楽しまれる方もいる。金銭感覚を失わないようにする援助方法の一つとしてとらえている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望や要望を聞き、家族等に電話などができるよう支援している。継続的な家族とのやり取りの成果として外泊ができるようになった入居者も複数事例できている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾りつけを工夫し、湿度や室温を調整し入居者が過ごしやすい環境になるよう工夫している。食堂やリビング等共有スペースの室温湿度管理には特段の注意を払っている。	利用者の、過ごしやすさや居心地のよさを第一に考えた共用空間づくりに、取り組まれています。季節を感じる飾り付けや、温度・湿度管理に徹底した配慮をされ、利用者が居心地よく安心して過ごせるよう職員全員が高い意識を持って工夫し、配慮された取り組みをされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやイスなどで気の合った入居者同士が談笑できるよう、また一人一人に合わせた時間を過ごせるように心掛けている。また季節ごとの設えに工夫を凝らせるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を置いたり以前に使っていた使い慣れた生活用品を使用するなどして、本人が過ごしやすい部屋づくりを心掛けている。職員と一緒に製作した自分カレンダーを飾ってある入居者もおおいになる。	部屋の入り口から個性をいかした工夫をされており、馴染みの物の持込やそれぞれの飾り物など、居心地よく過ごし易い居室づくりをされています。居室内の温度・湿度管理への配慮がされ、安心して過ごせるよう取り組まれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室を花の名前にしているが、名前の表記や分かりづらい部分は文字を大きくするなど工夫をしていて、自分の部屋との認識づくりを誘導している。居室には家族の同意の上、個人名を掲示し、トイレも分かりやすく工夫している。		